

1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は強い冬型の気圧配置が続いている。500hPa 5340m付近のトラフが東日本を通過中で、24日21時の輪島では500hPaで-38.9℃を観測。また、日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が北陸地方を指向。東～西日本では降雪が強まっており、雷を検知。石川県では顕著な大雪に関する気象情報を発表。全国的にやや強い風や強い風が吹き波が高くしけの所がある。
- ② 500hPaで-42℃以下の寒気を伴う寒冷渦に対応した低気圧が、北海道の西をゆっくり南下。北日本では3時間15～20cmの降雪を観測。
- ③ 低気圧が日本の東にあって、前線が伊豆諸島付近にのびており、周辺では活発に発雷。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 25日は、1項①のトラフに後続するトラフが西～東日本を通過し、強い冬型の気圧配置が続く。JPCZは西日本に南下し不明瞭化。JPCZ周辺では下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定で、25日午前中を中心に、風の収束によって発達した雪雲の流入が続く。東～西日本の日本海側を中心に、山地だけでなく沿岸などの平地でも短時間で降雪が強まる所がある。上空の寒気が強く、普段雪の少ない太平洋側にも雪雲が流れ込んで大雪となる所がある。1項②の低気圧は25日朝までに北海道地方に進んで不明瞭となるが、寒冷渦が26日はじめにかけて北海道付近を通過する。北日本では風が収束して発達した雪雲の流入が続き降雪を強める所がある。26日は、冬型の気圧配置は西から緩むが、北日本を中心に寒気の流入が残る。東～西日本では25日は、北日本では26日にかけて、大雪による交通障害に警戒し、着雪やなだれ、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 27日は、低気圧が日本海を東進して北～東日本付近を通過し、別の低気圧が北海道の西に発生する。さらに、別の低気圧が東シナ海を東進して南西諸島を通過する。低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い降雪が強まって大雪となる所がある。北～東日本では27日は、大雪や着雪、なだれ、落雷、突風、降ひょうに注意。南西諸島では降水の強まりに留意。
- ③ 2項①②の冬型の気圧配置や低気圧の影響で、強い風が吹き波が高くなりしける所がある。北～東日本では27日にかけて、西日本では26日にかけて、南西諸島では27日は強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ## 4. 防災関連事項〔量的予報等〕
- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(06時からの24時間)：東北・北陸70、北海道・関東甲信50、東海・近畿40、中国30cm。
 - ③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島5、北海道・東北・北陸・近畿・中国4、東海・九州北部3m。
 - ④ 高潮(明日まで)：北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雪に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。